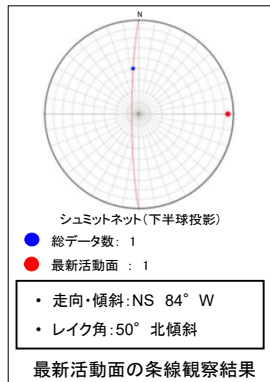


H24-B'-3 深度7.37~7.70m K断層(1/2)

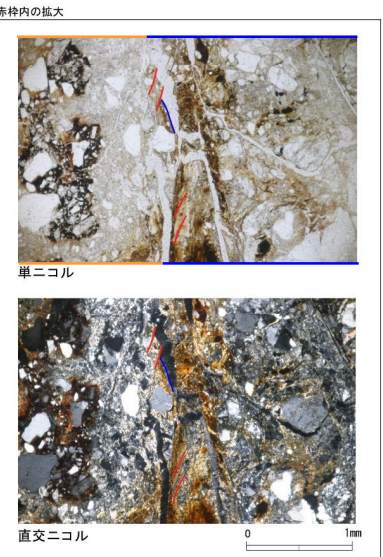
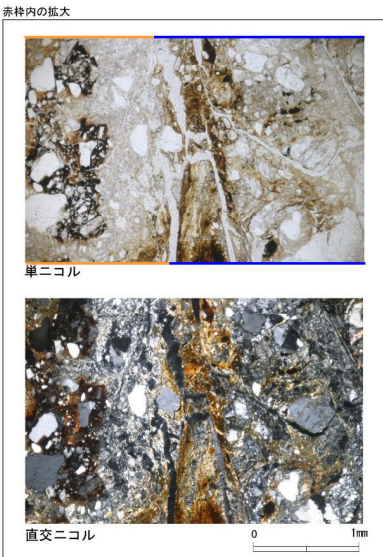
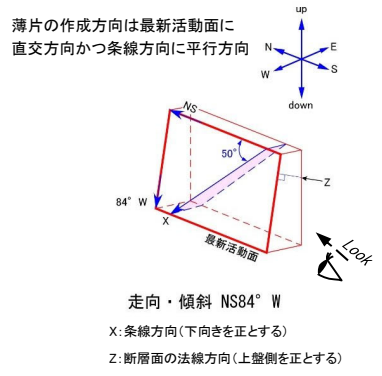
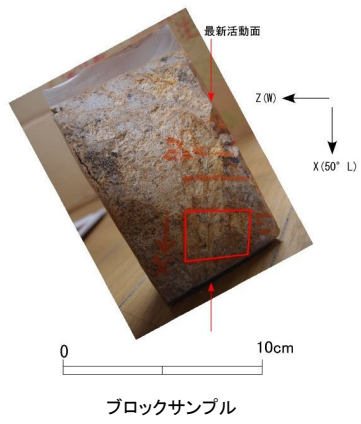
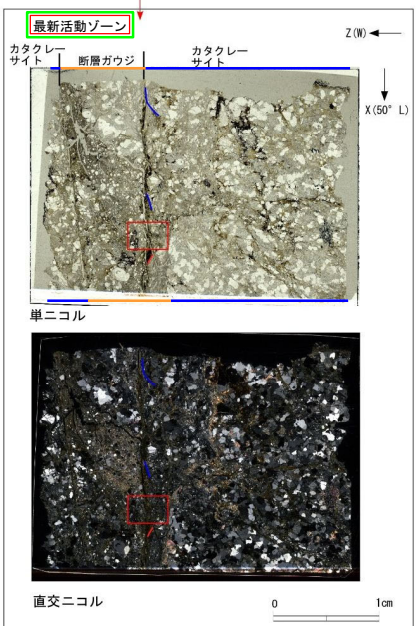
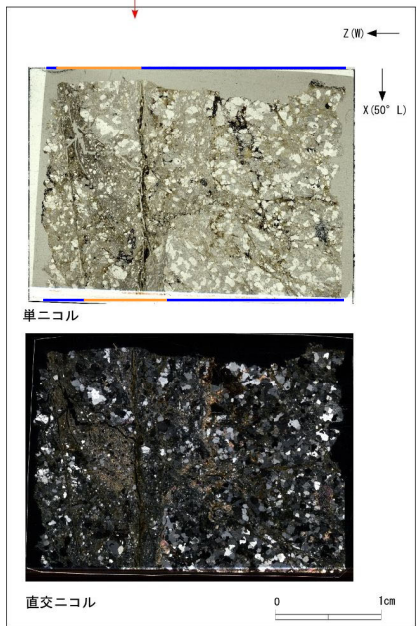
- ・H24-B'-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度7.70m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



↑ ↓ 最新活動面

↑ ↓ 最新活動面

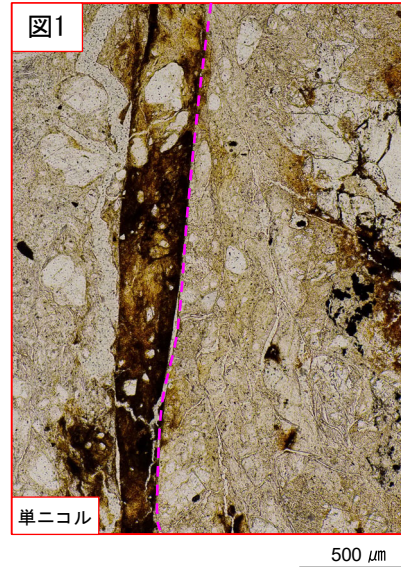
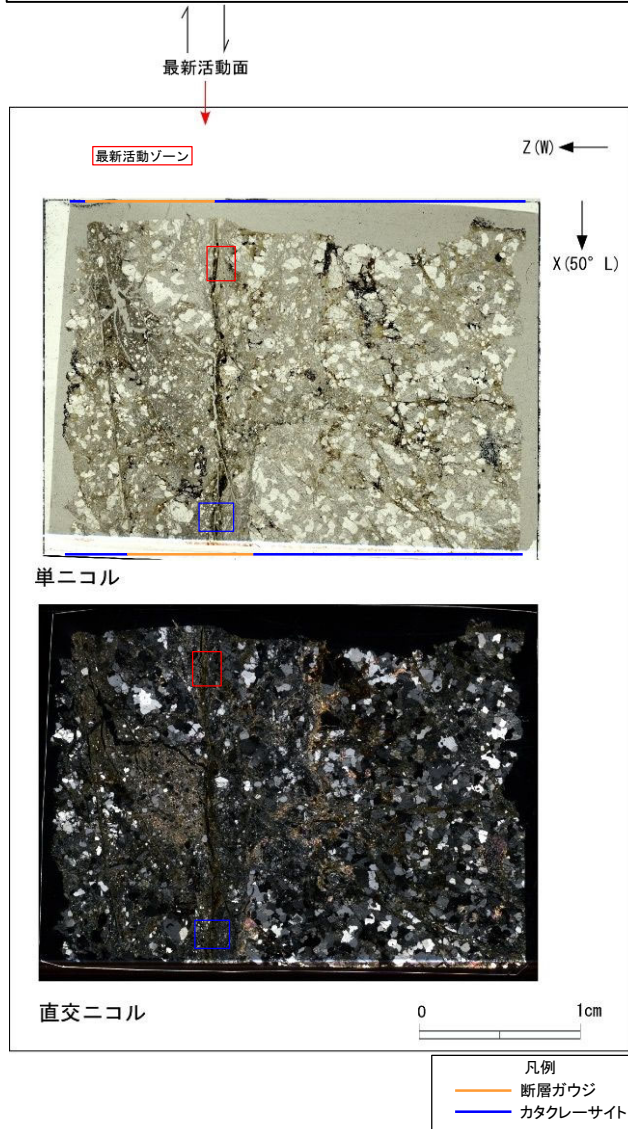
最新活動面の条線観察結果



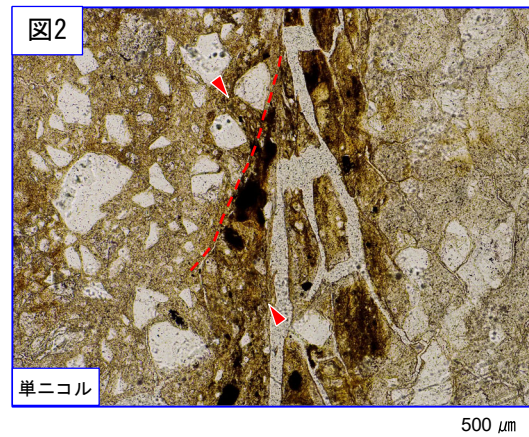
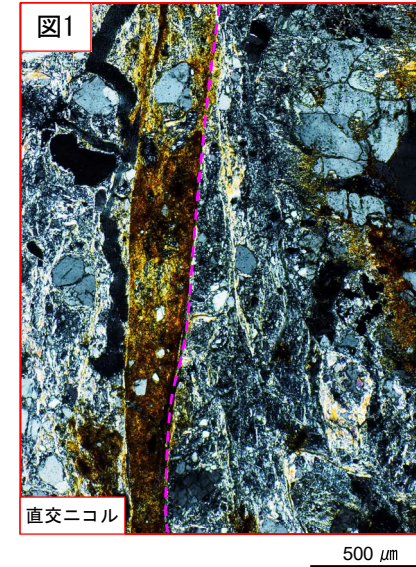
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B'-3 深度7.37~7.70m K断層(2/2)

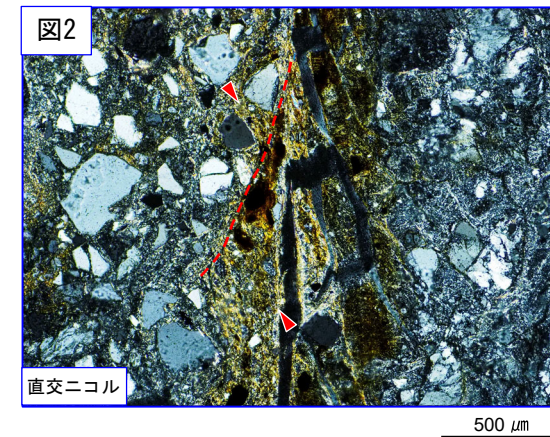
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

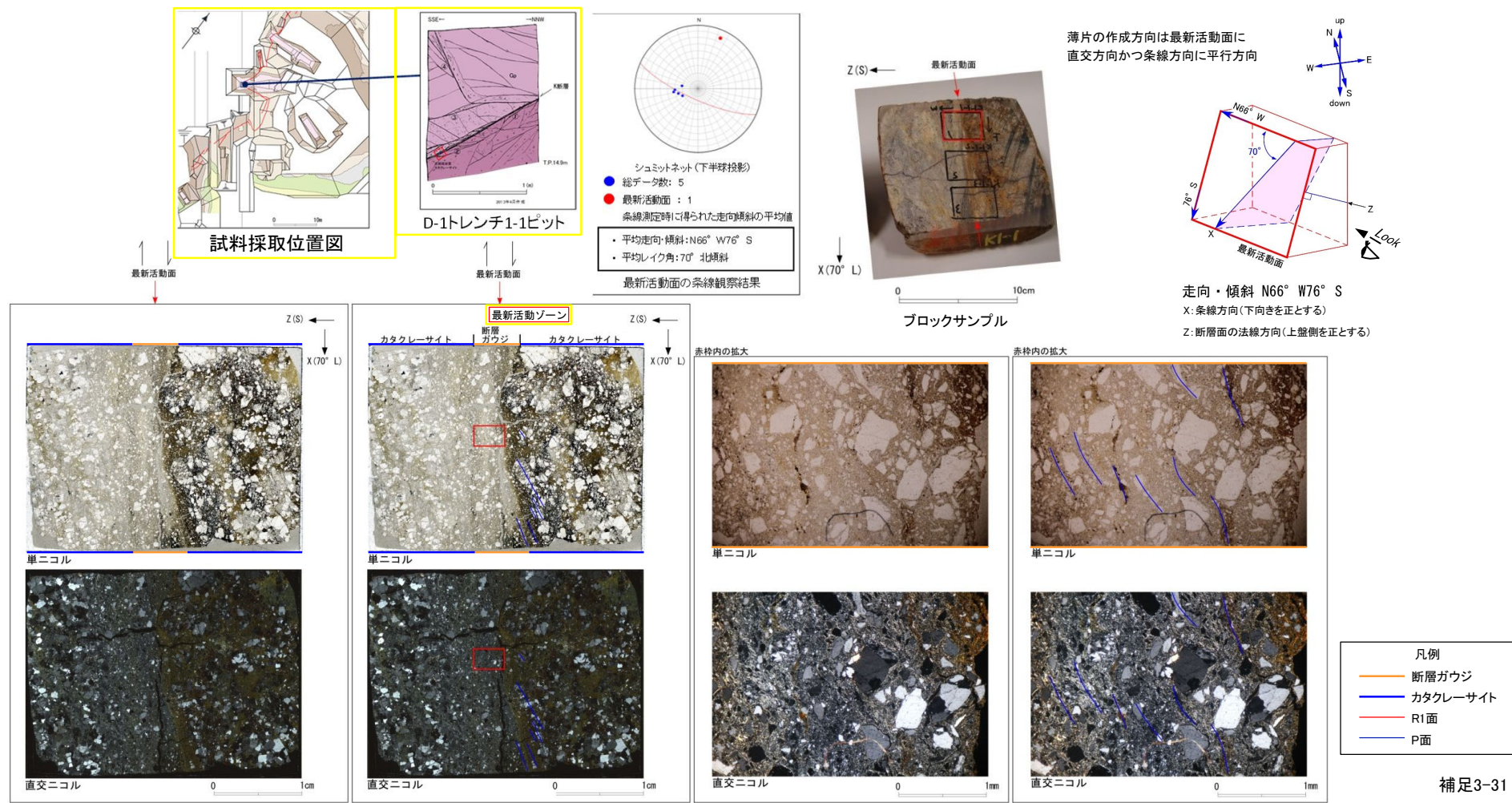


赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。
破線はR₁面を示す。



D-1トレンチ1-1ピット K断層(1/3)

- ・D-1トレンチ1-1ピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



D-1トレンチ1-1ピット K断層(2/3)

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

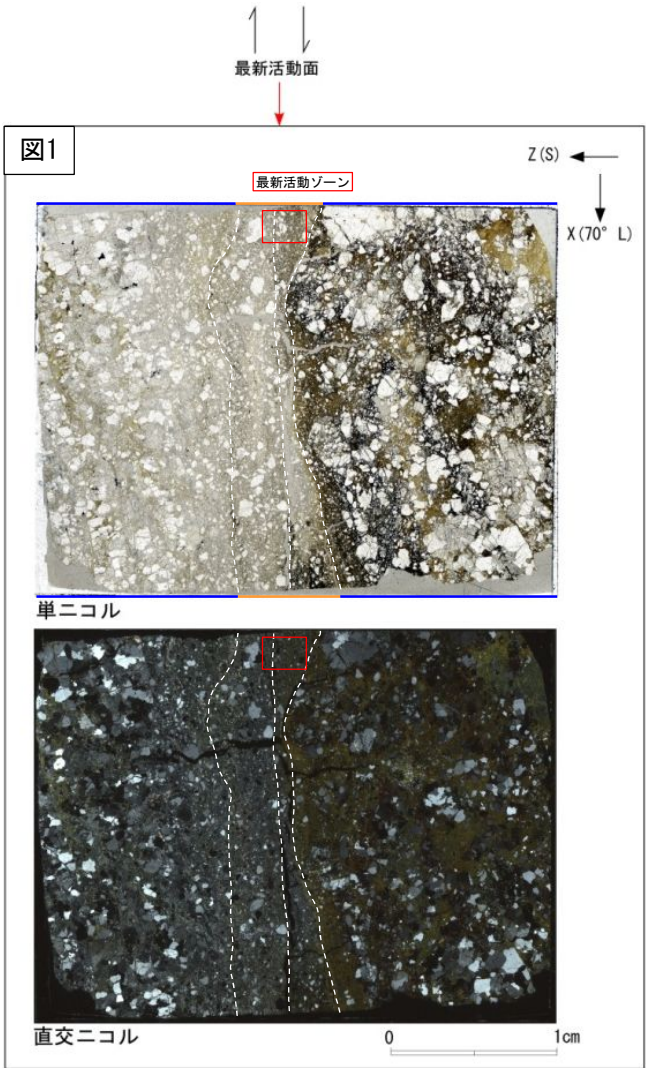
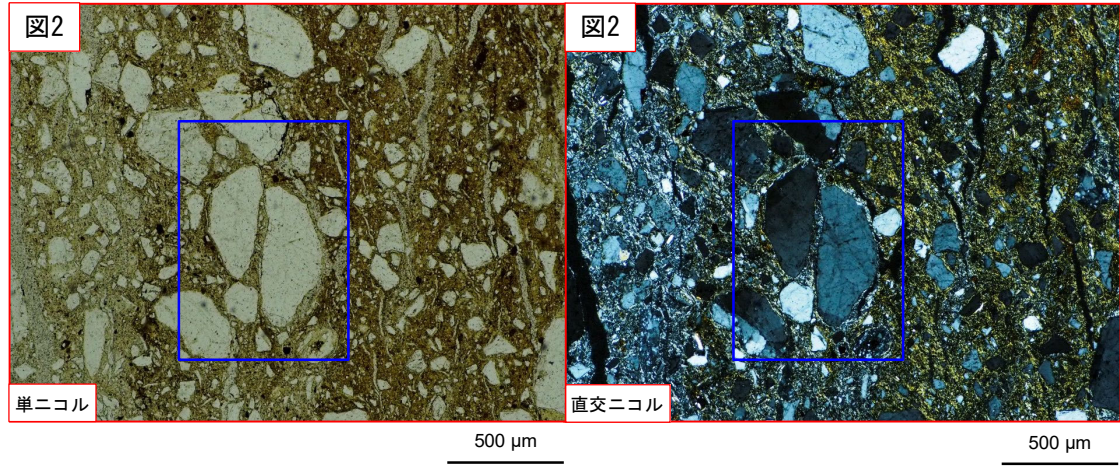


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



拡大

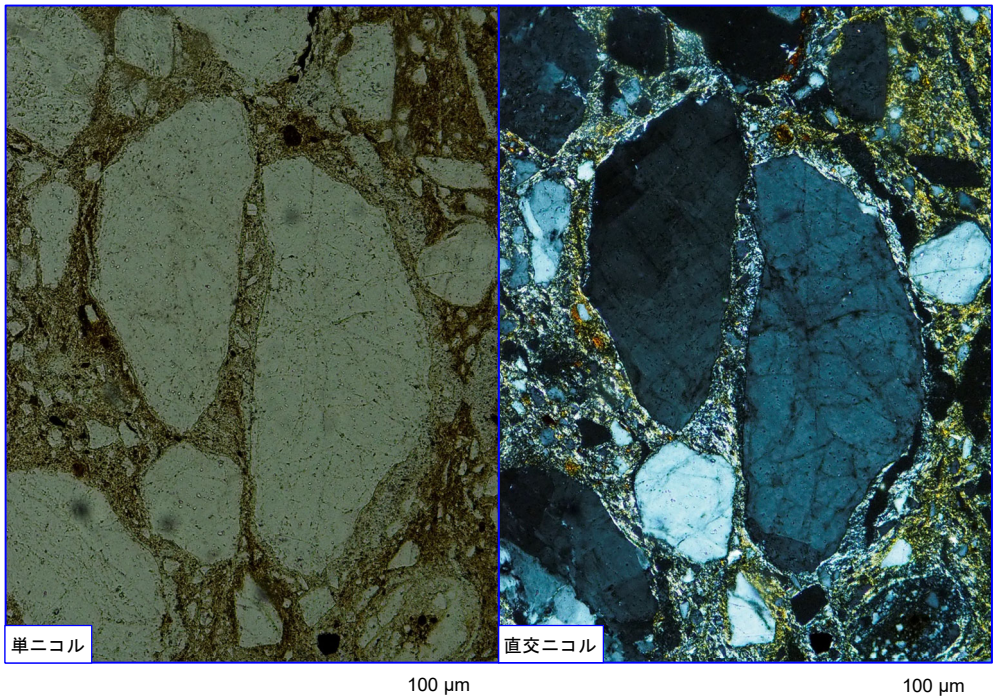


図2では、周囲に白色の断層ガウジを伴う岩片が、黄色の断層ガウジに取り込まれている様子も見られる。

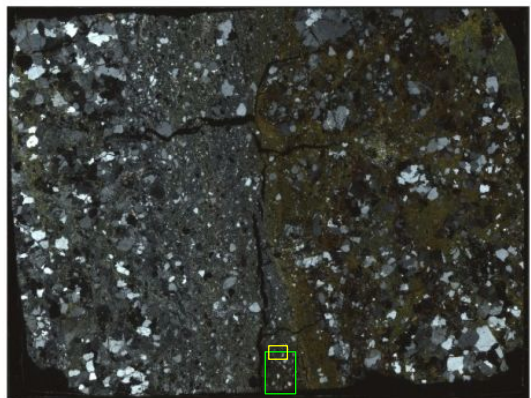
D-1トレンチ1-1ピット K断層(3/3)

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図3)
- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図4)

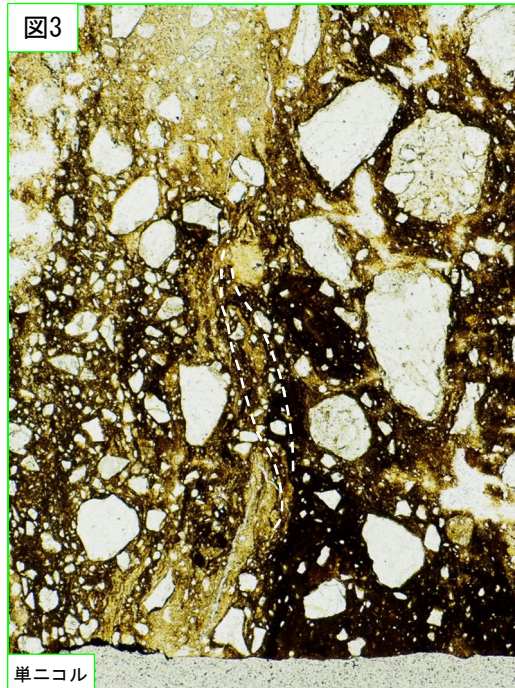
↑ ↓
最新活動面



単ニコル



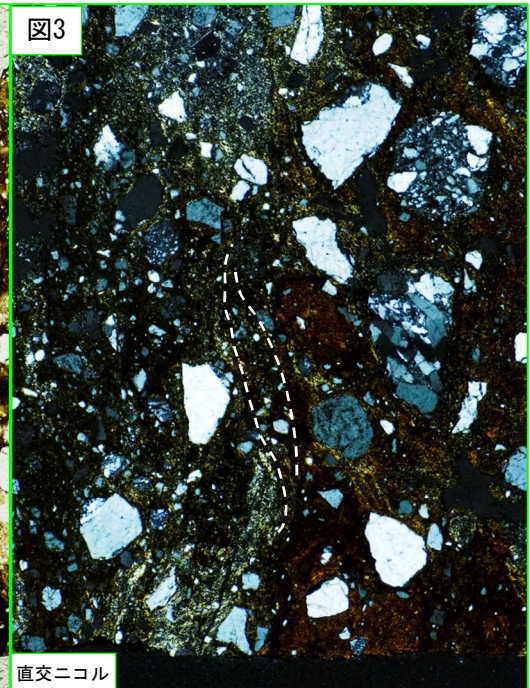
直交ニコル



単ニコル

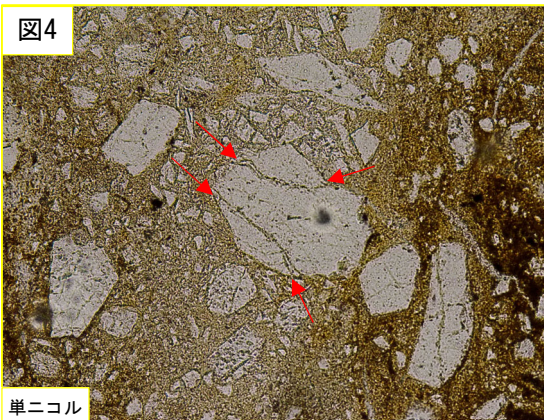
破線は粘土鉱物の配列を示す。

500 μm

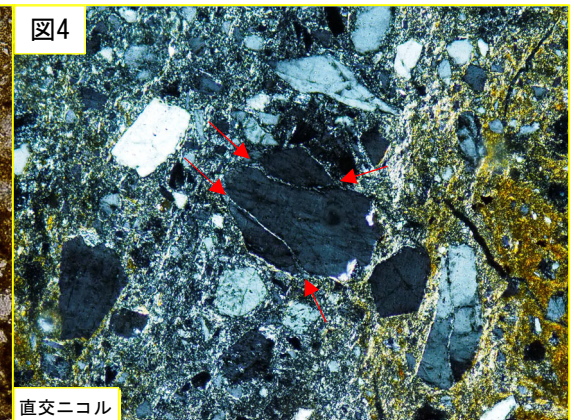


直交ニコル

500 μm



単ニコル



直交ニコル

200 μm

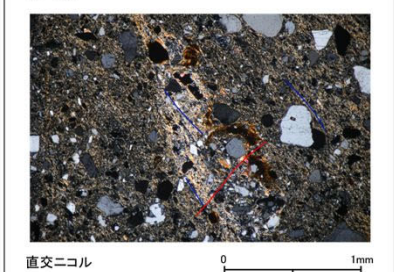
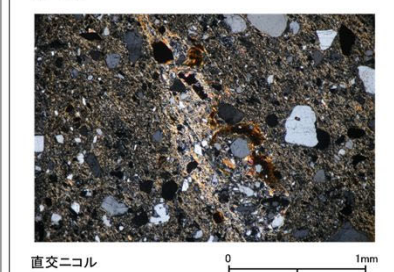
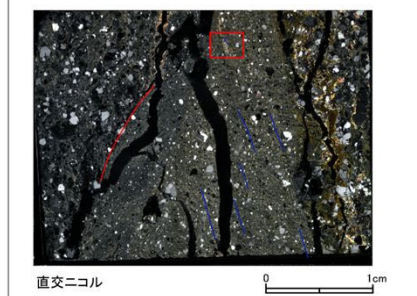
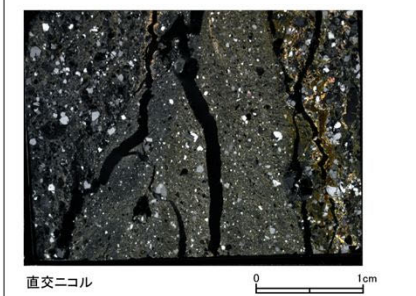
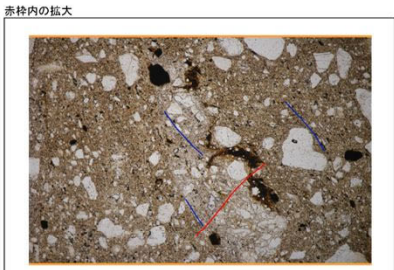
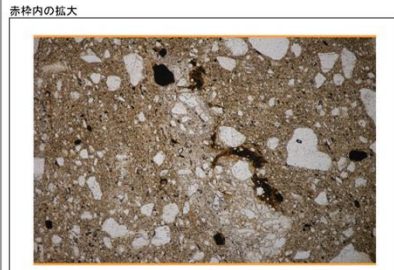
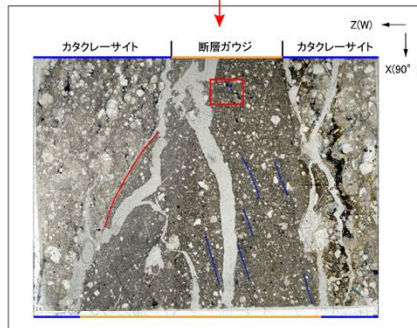
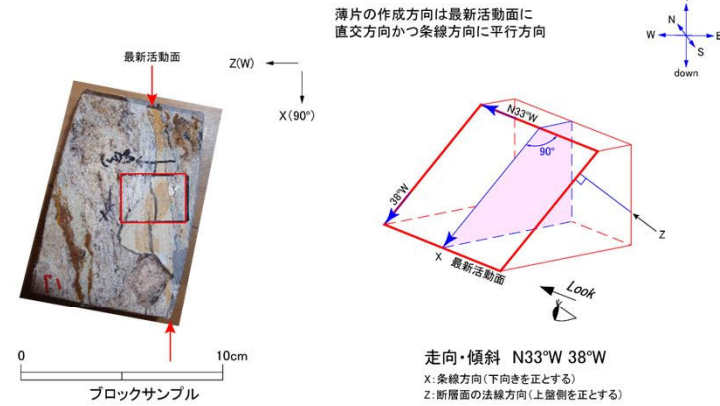
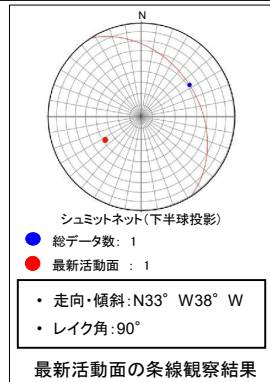
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m K断層(1/2)

・H24-H-6-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度9.58m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

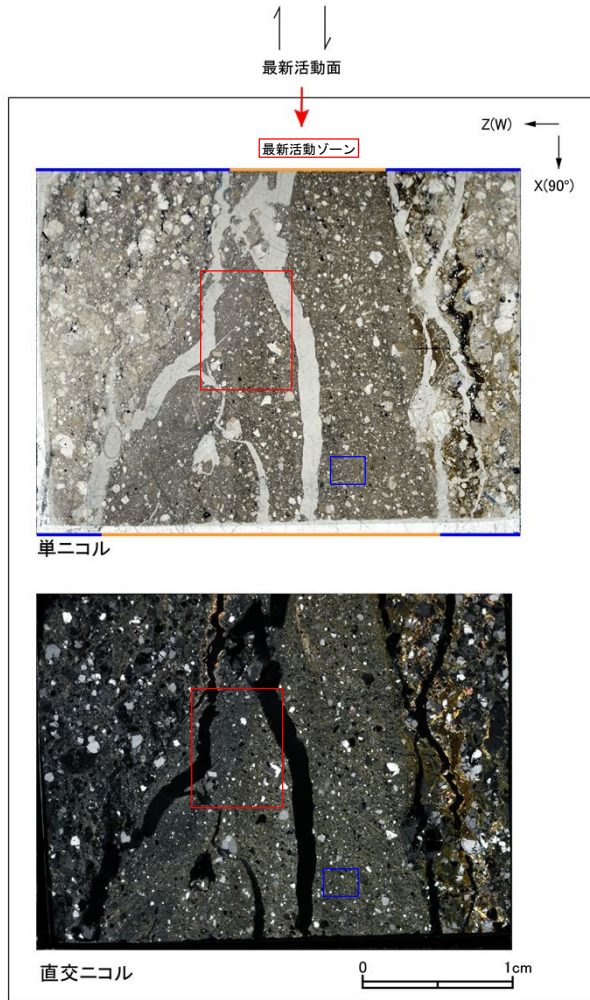
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



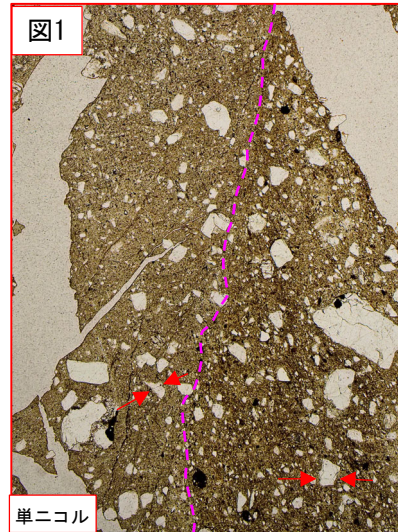
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m K断層(2/2)

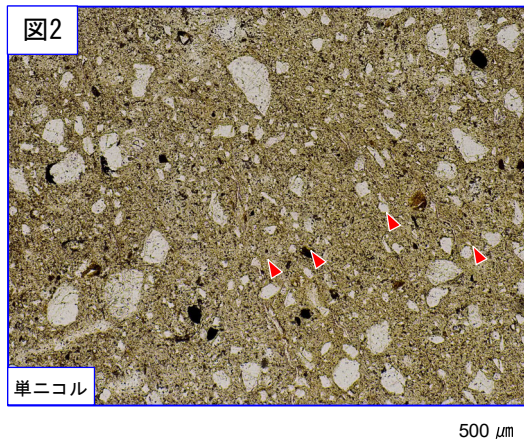
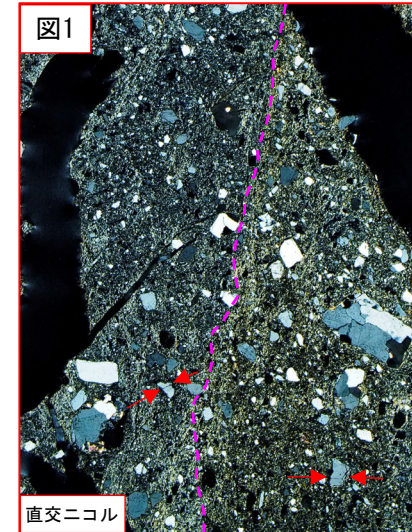
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)



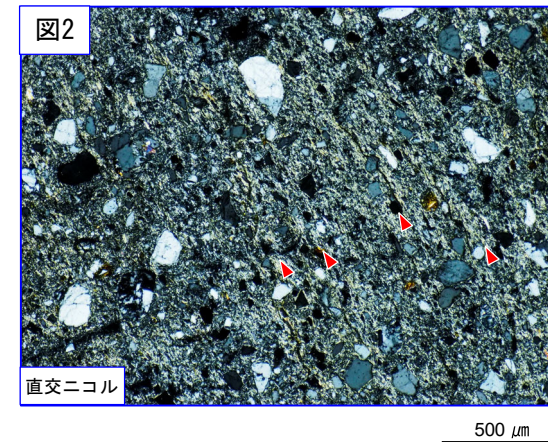
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。 1 mm
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



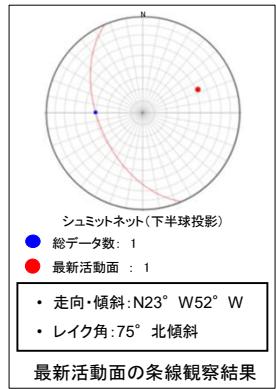
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



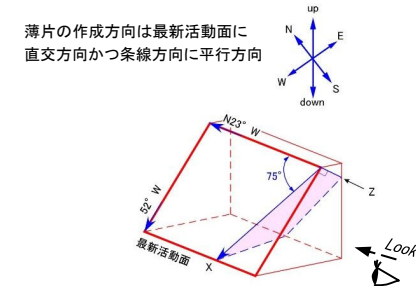
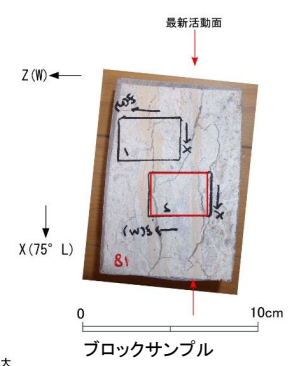
H24-H-6 深度9.92~14.69m K断層(1/3)

・H24-H-6のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.50m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シンクソール状の角礫群が認められる。

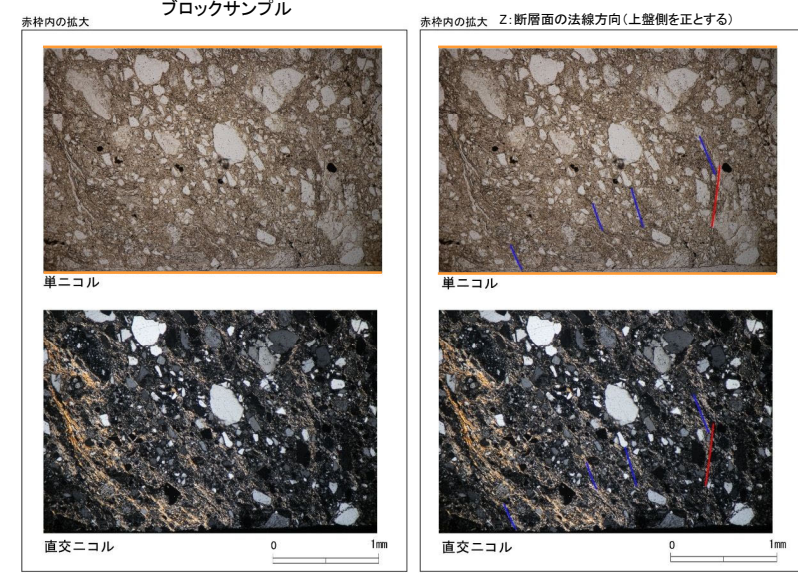
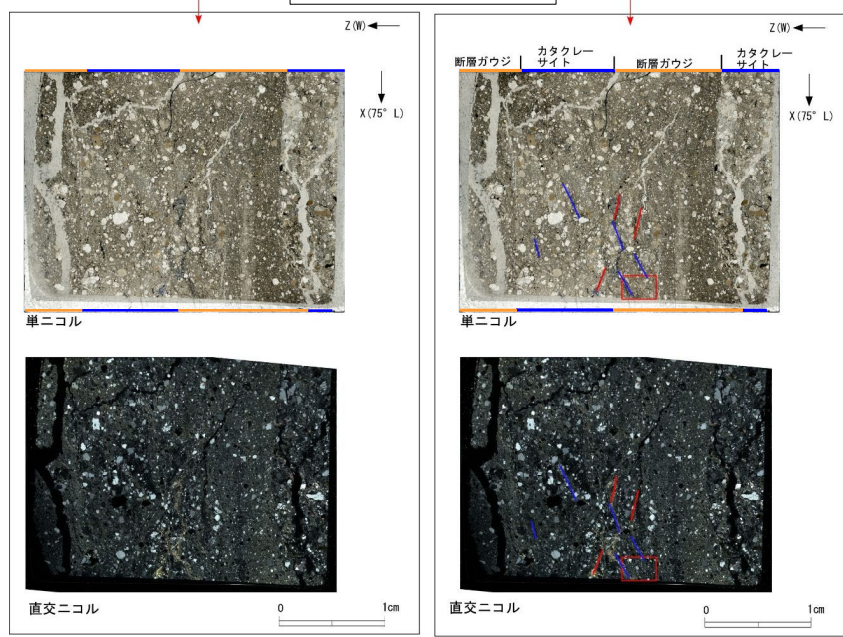


最新活動ゾーン



走向・傾斜 N23° W52° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)

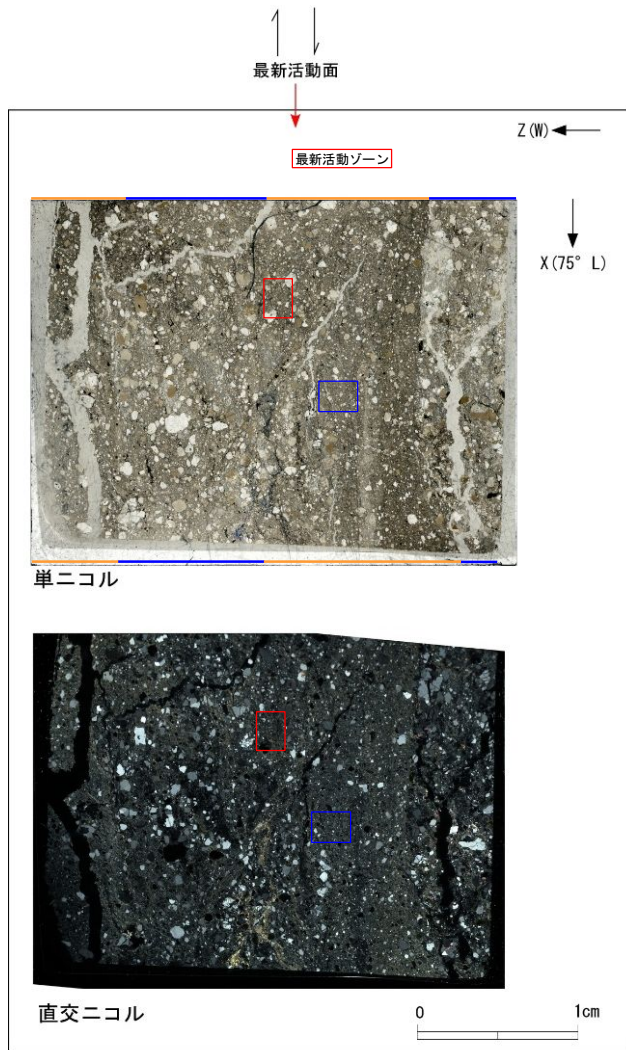
赤枠内の拡大 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-6 深度9.92~14.69m K断層(2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)

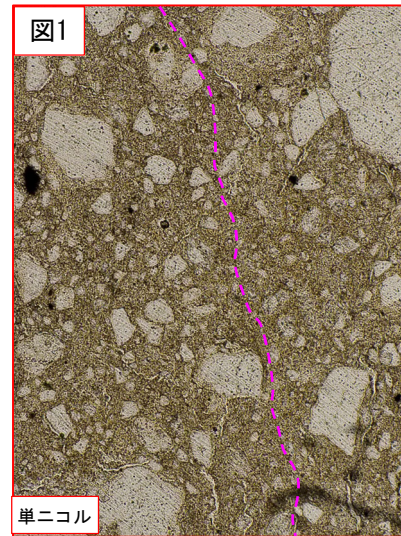


単ニコル

直交ニコル

0 1cm

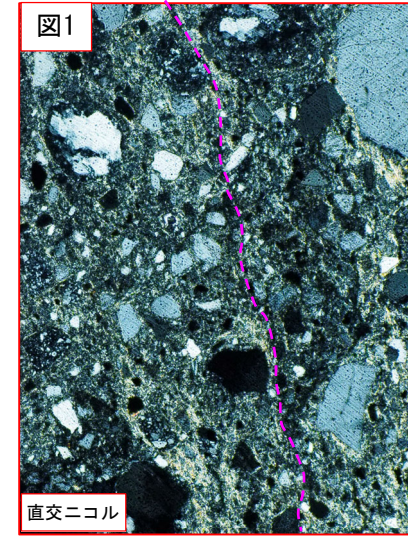
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



単ニコル

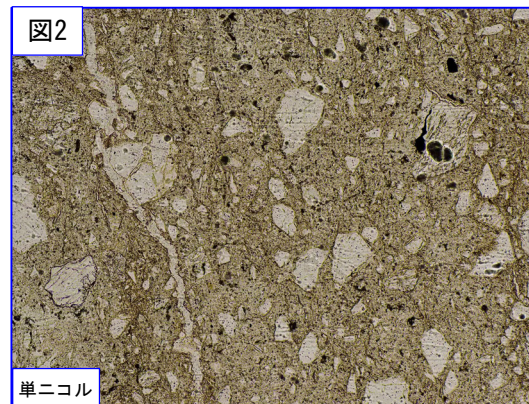
500 μm

破線は帯状で直線的な範囲を示す。



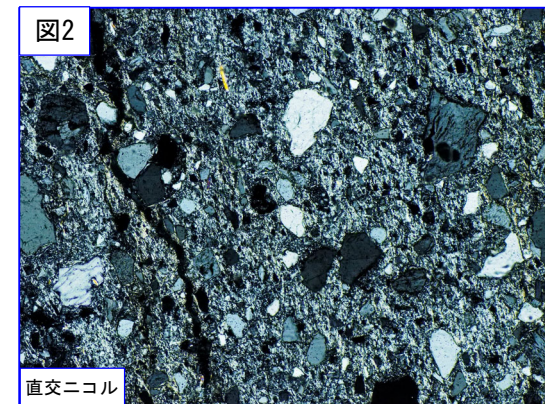
直交ニコル

500 μm



単ニコル

500 μm

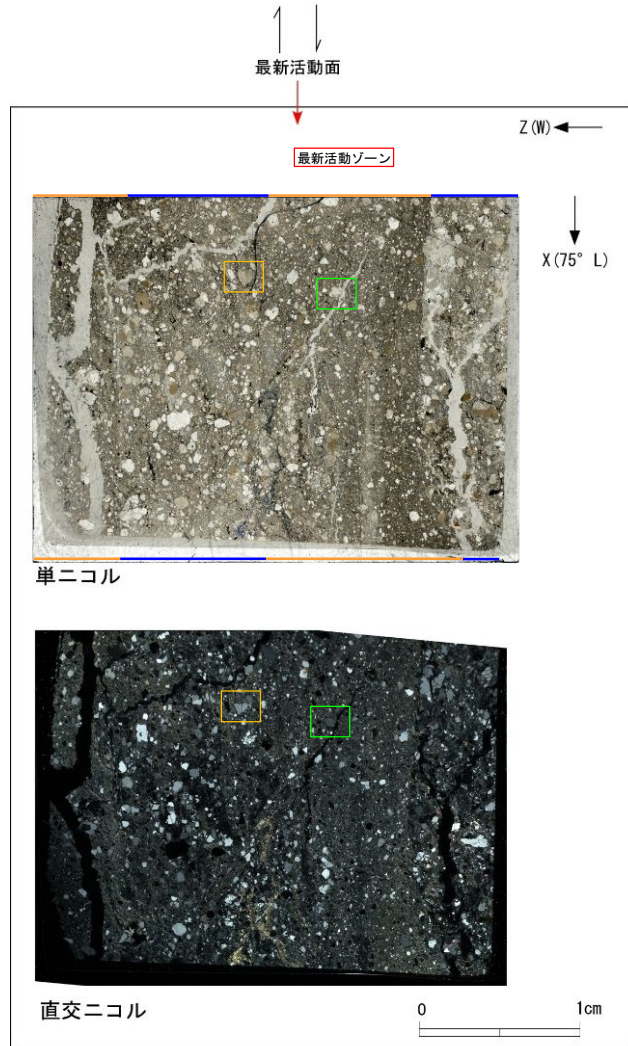


直交ニコル

500 μm

H24-H-6 深度9.92~14.69m K断層(3/3)

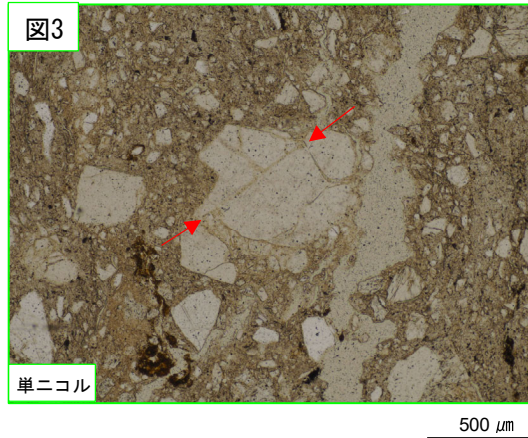
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



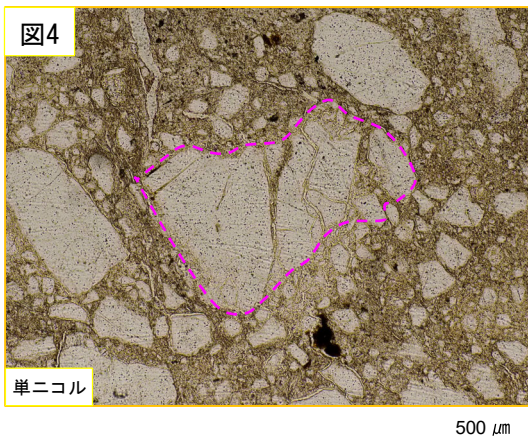
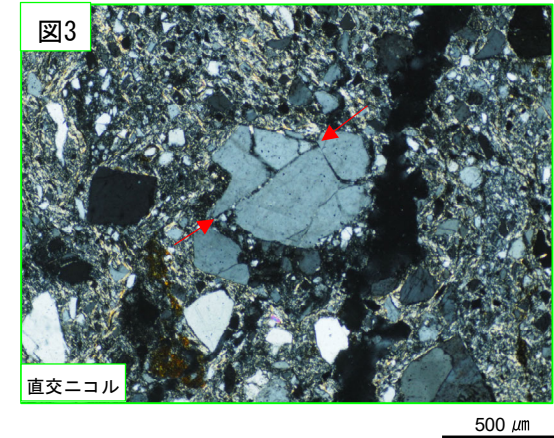
単ニコル

直交ニコル

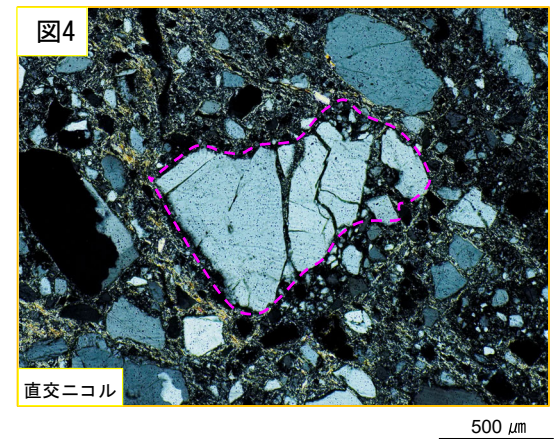
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



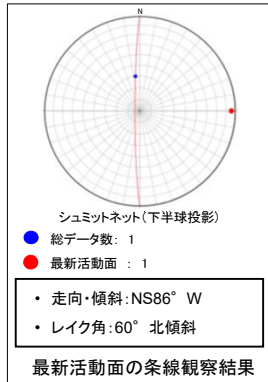
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



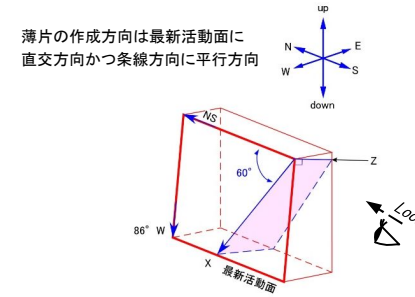
H24-H-9-1 深度10.43~11.00m K断層(1/2)

・H24-H-9-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.43m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

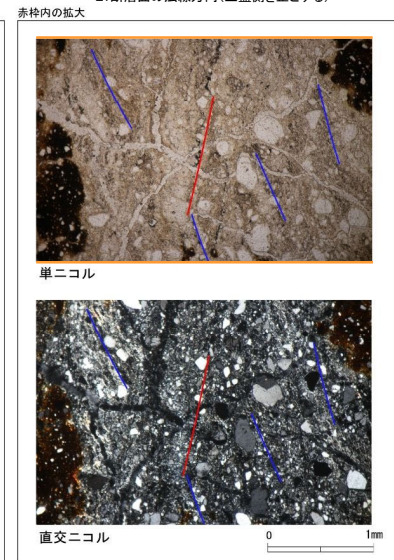
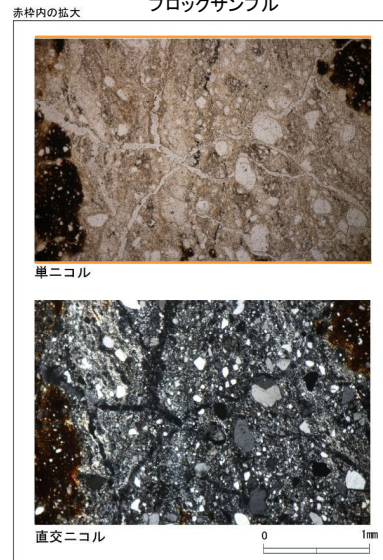
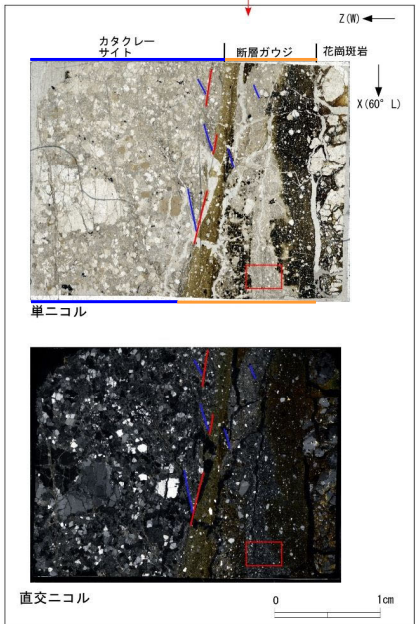
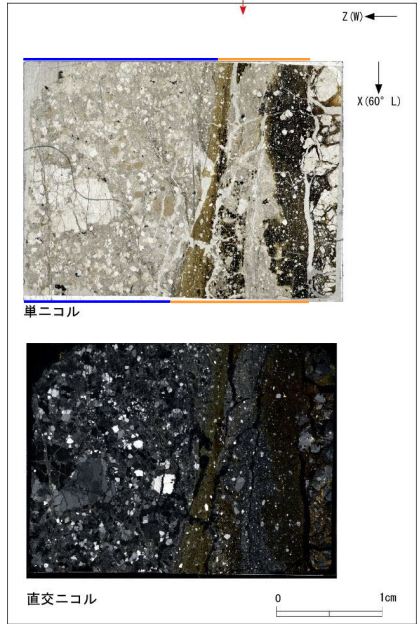
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



最新活動ゾーン



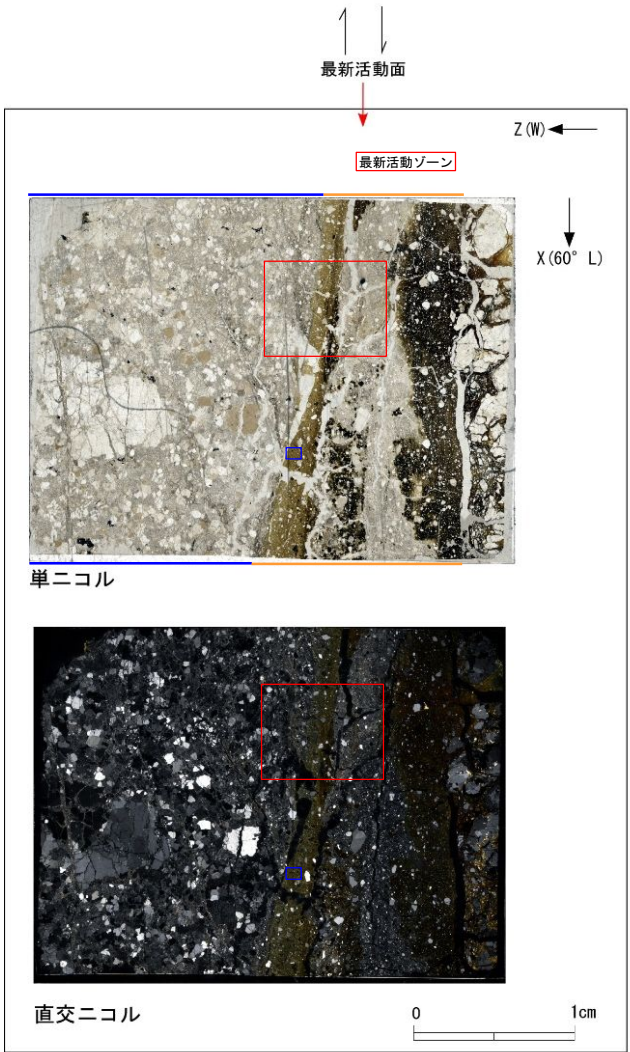
走向・傾斜 NS86° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



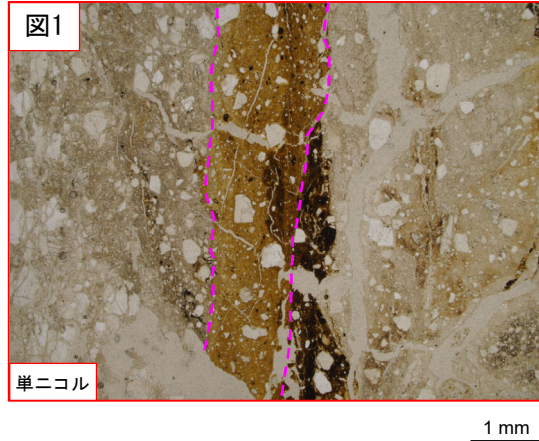
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-9-1 深度10.43~11.00m K断層(2/2)

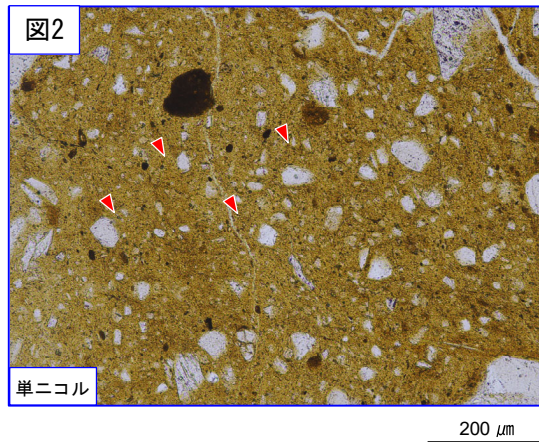
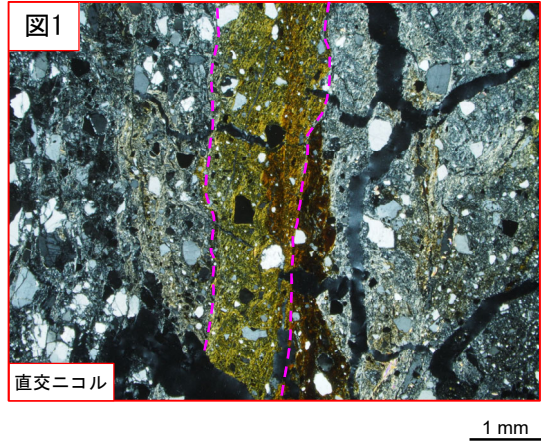
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



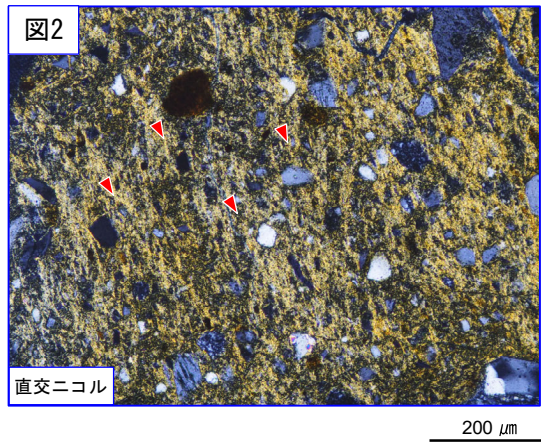
凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

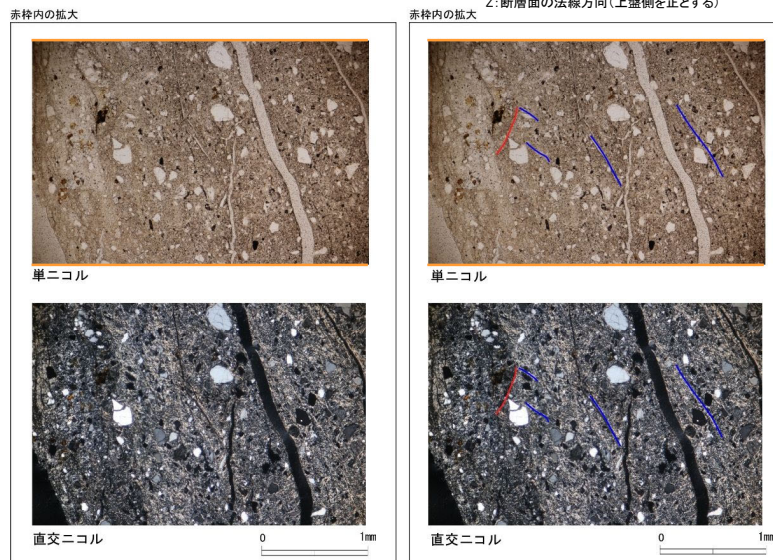
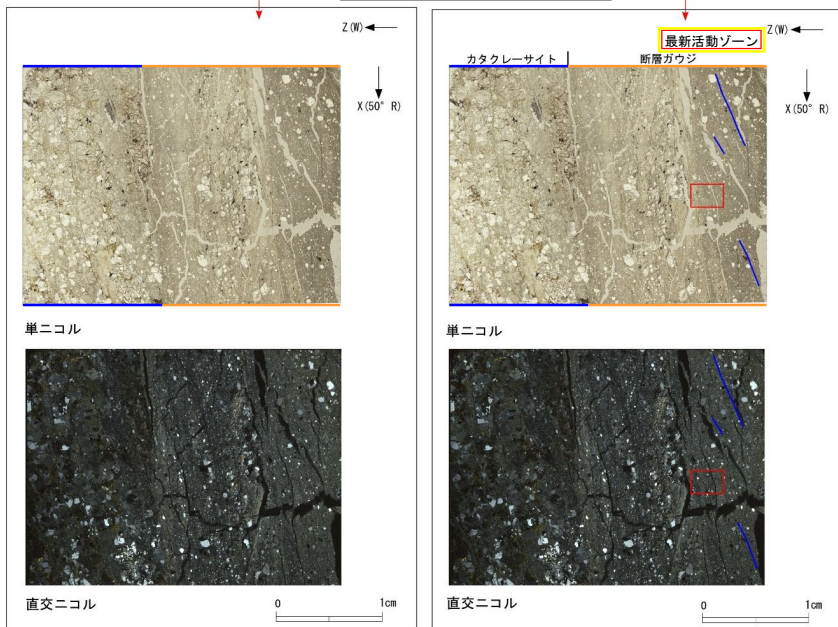
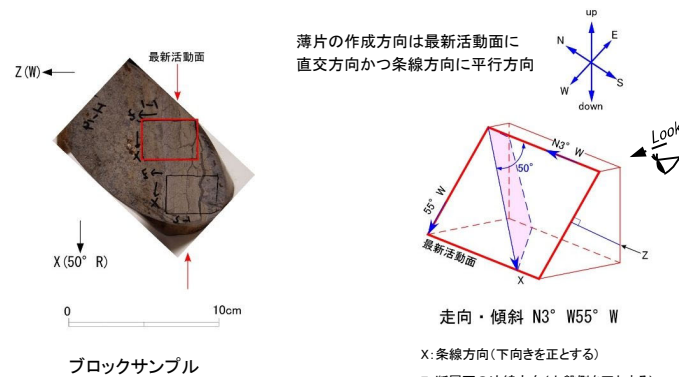
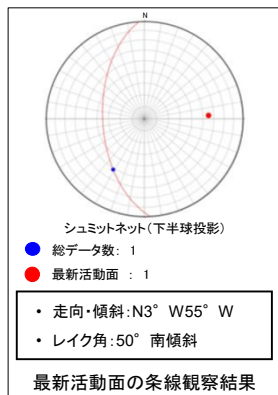


赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(1/2)

- ・H24-H-14のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度4.93m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2, 3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2, 3)

↑ ↓
最新活動面

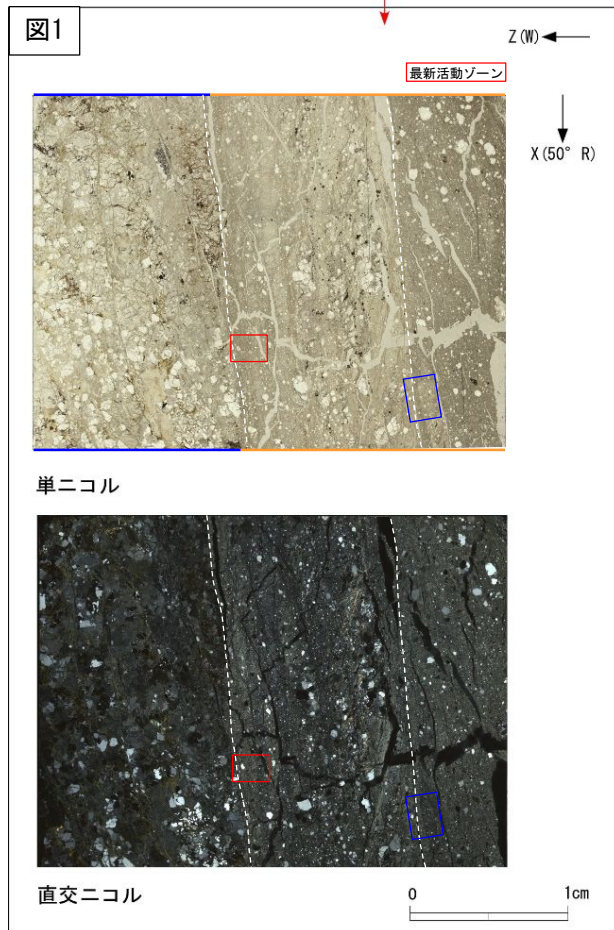
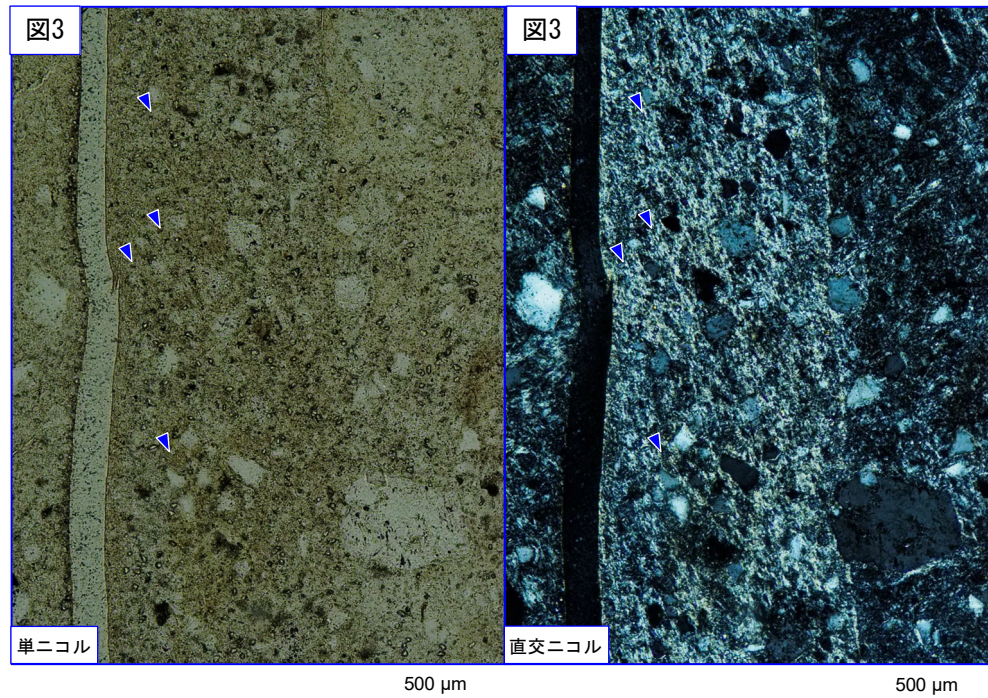
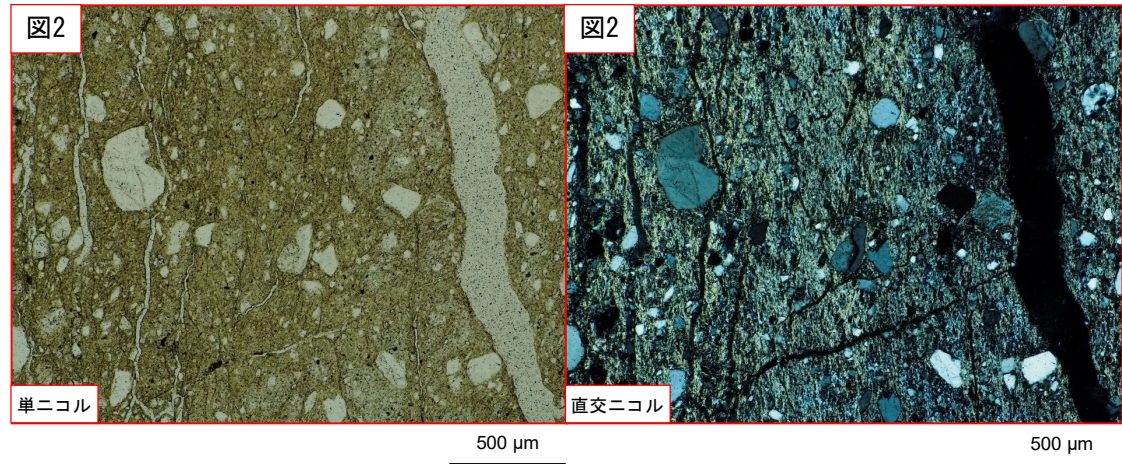


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。

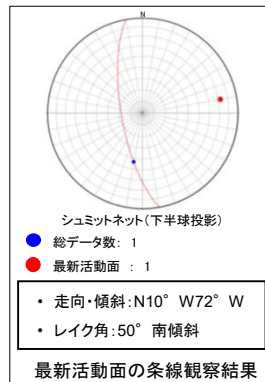
- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



青矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

H24-H-13 深度8.89~9.80m K断層(1/3)

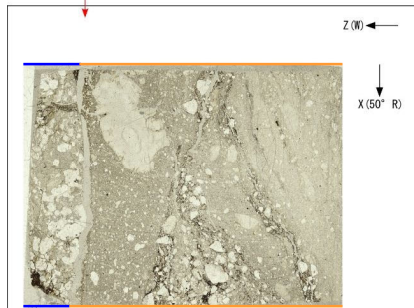
- ・H24-H-13のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度8.89m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



最新活動面

最新活動面の条線観察結果

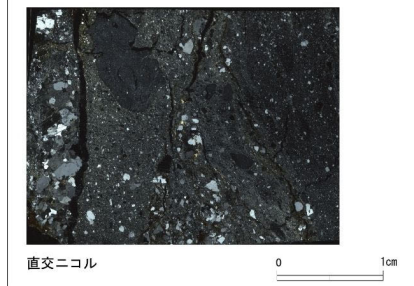
最新活動面



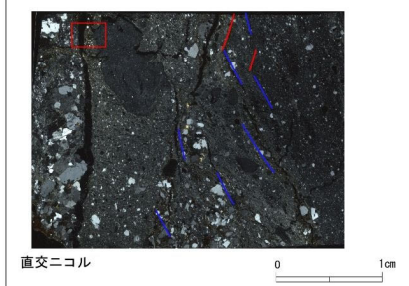
単ニコル



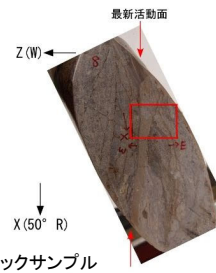
単ニコル



直交ニコル

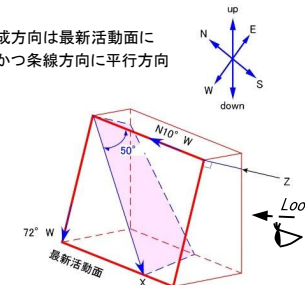


直交ニコル



ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

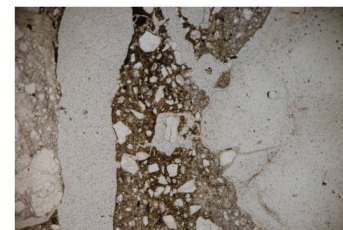


走向・傾斜 N10° W72° W

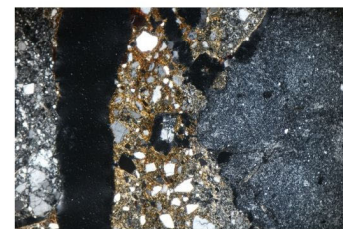
X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

赤枠内の拡大

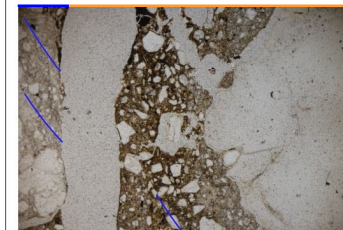


単ニコル



直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル

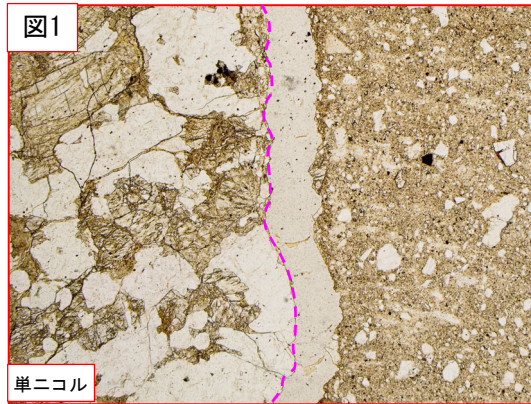
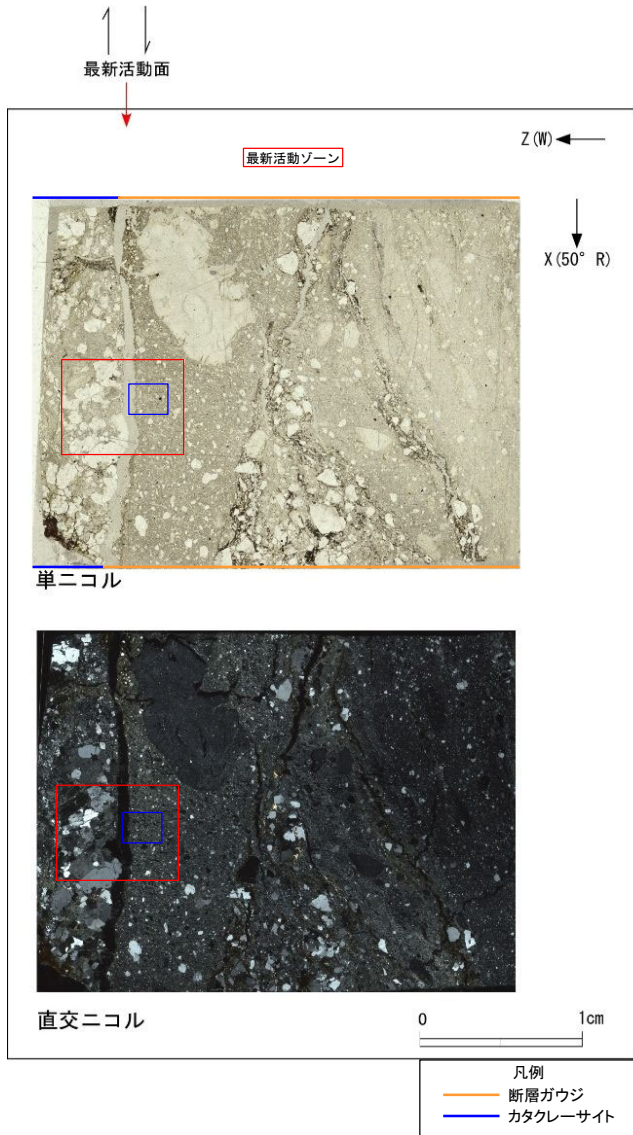


直交ニコル

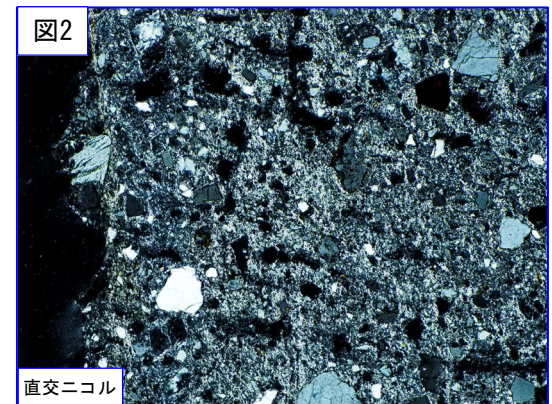
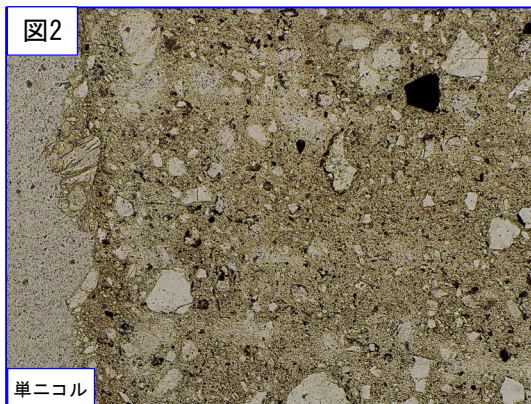
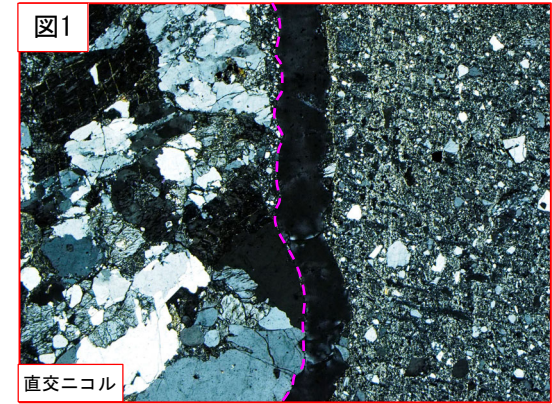
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレースイト
 - R1面
 - P面

H24-H-13 深度8.89~9.80m K断層(2/3)

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

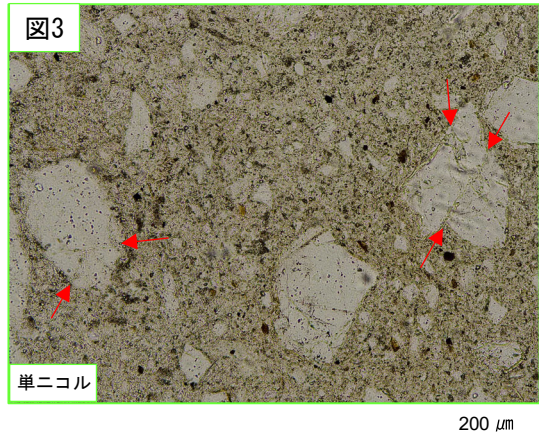
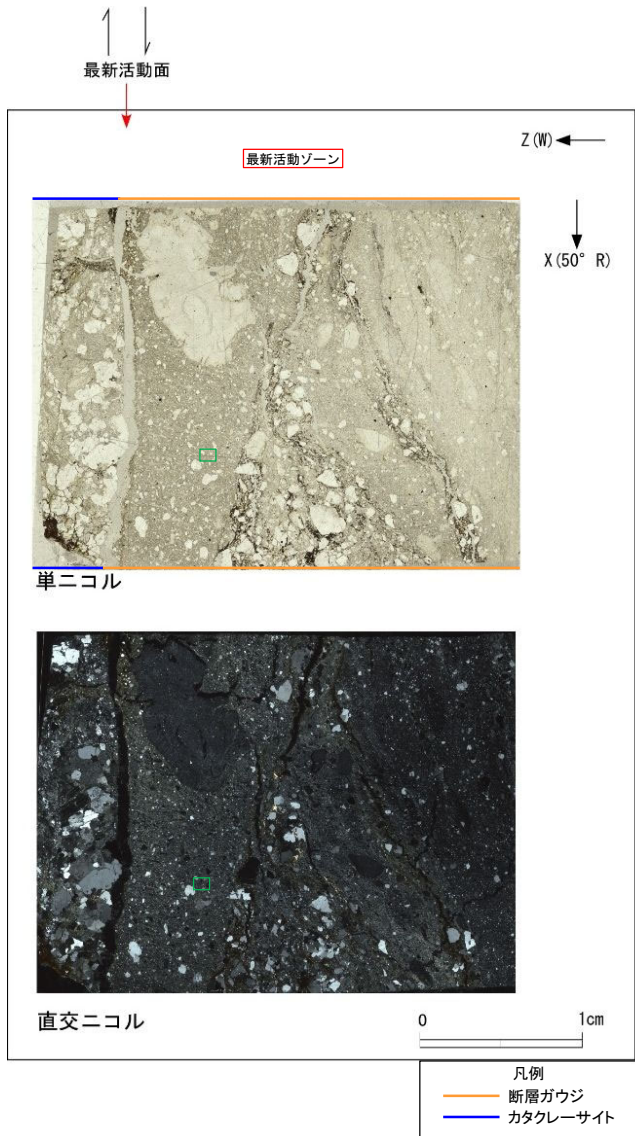


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

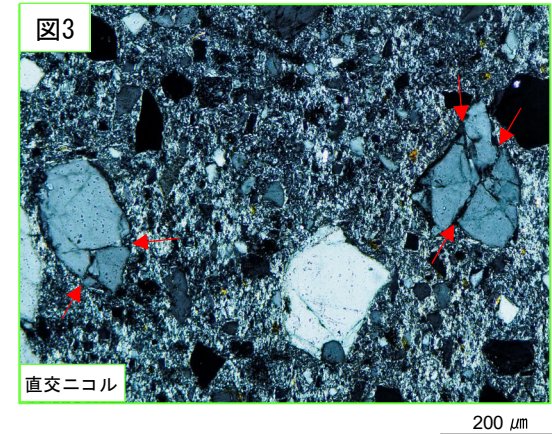


H24-H-13 深度8.89~9.80m K断層(3/3)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



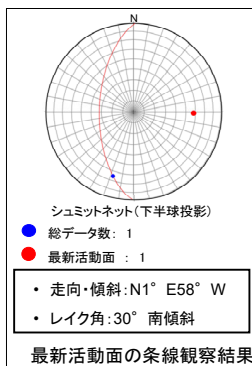
余白

H24-D1-1

余白

H24-D1-1 深度45.91~48.28m 非モデル化破碎部 (1/3)

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.65m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 岩片量は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

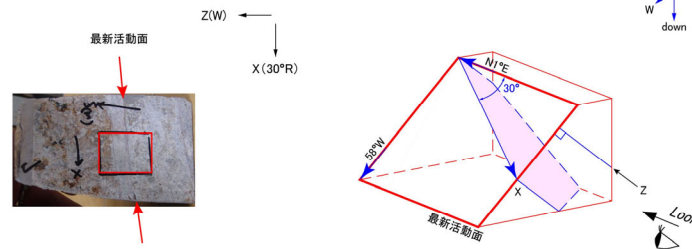


最新活動面

最新活動面の条線観察結果

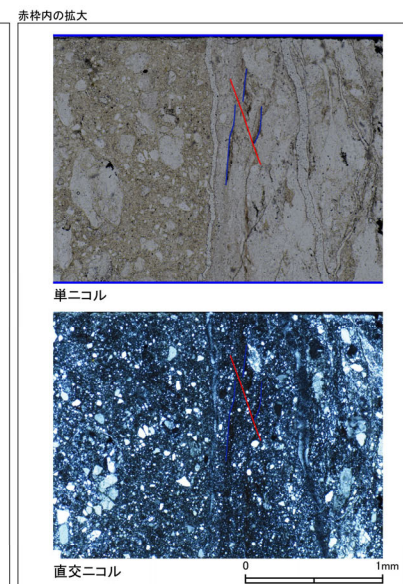
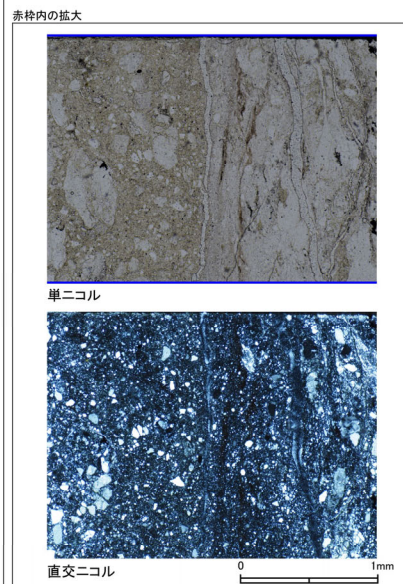
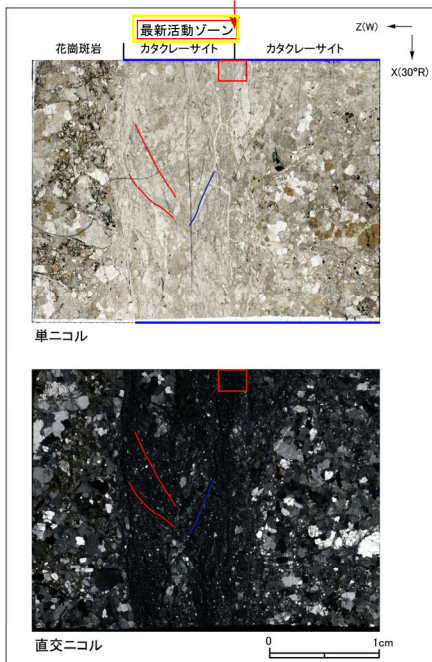
最新活動面

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



0 10cm
ブロックサンプル

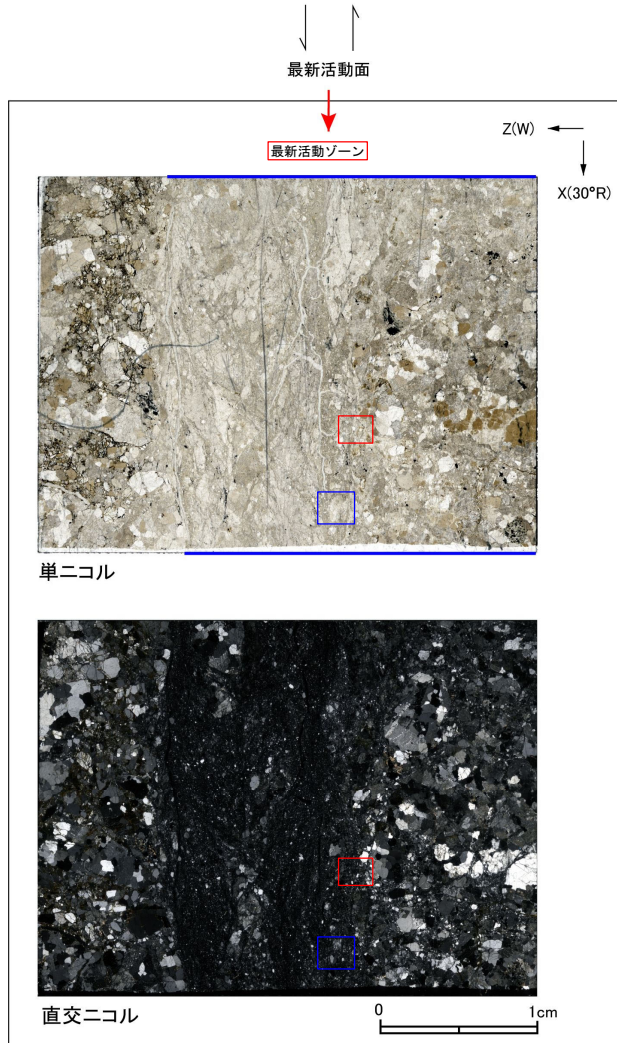
走向・傾斜 N1°E 58°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



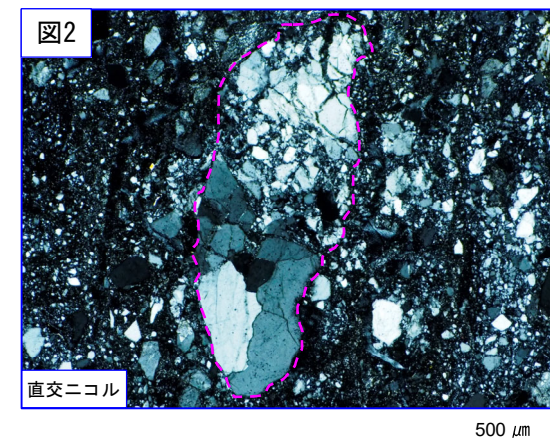
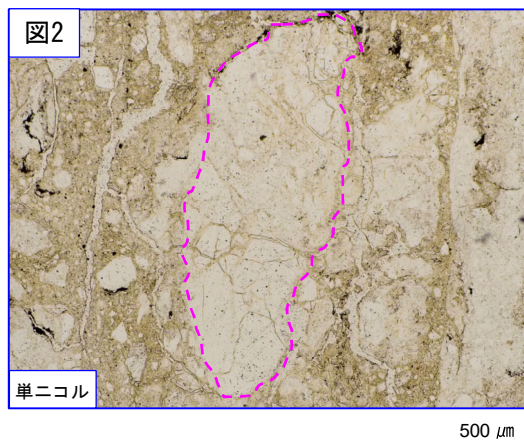
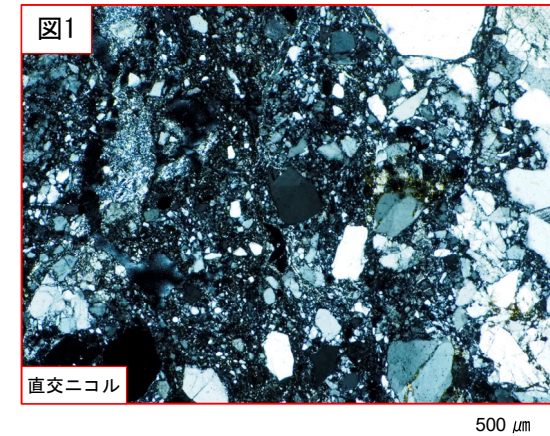
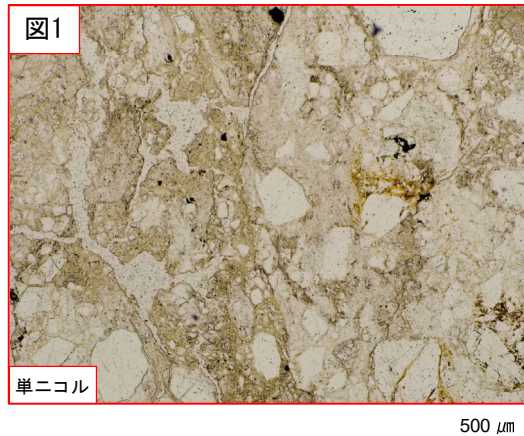
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-1 深度45.91~48.28m 非モデル化破碎部 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図1)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



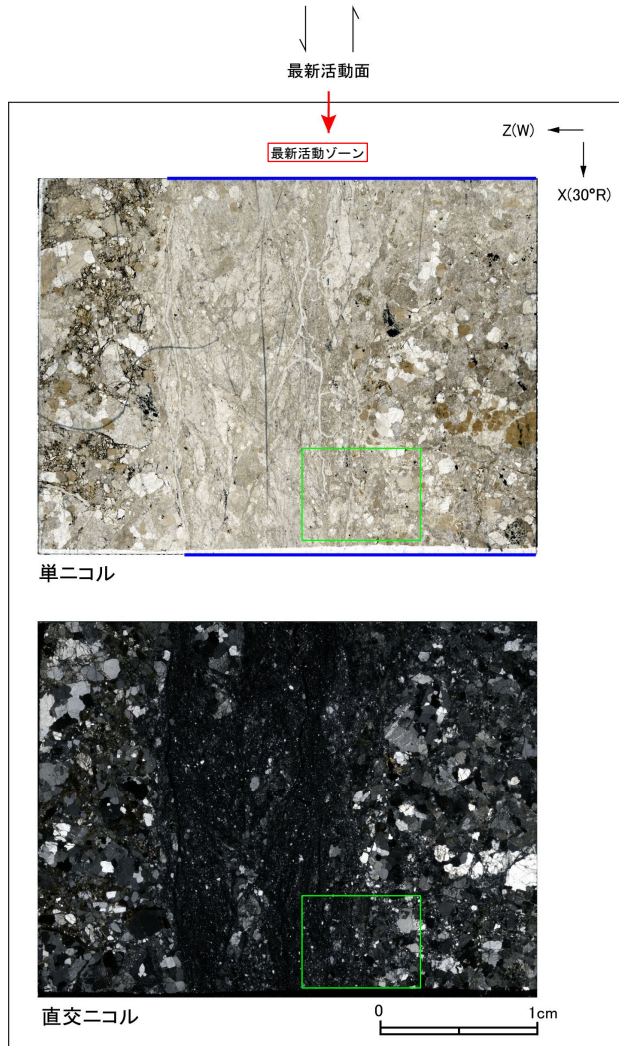
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



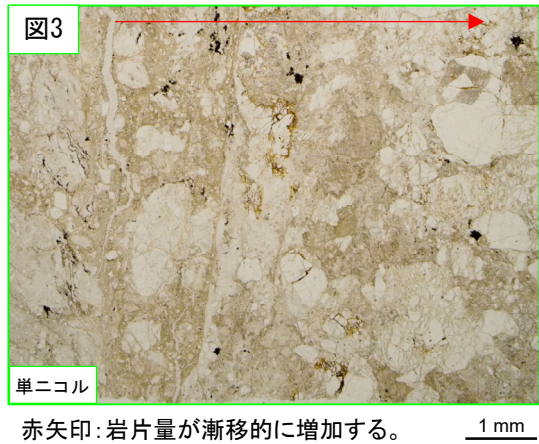
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

H24-D1-1 深度45.91~48.28m 非モデル化破碎部 (3/3)

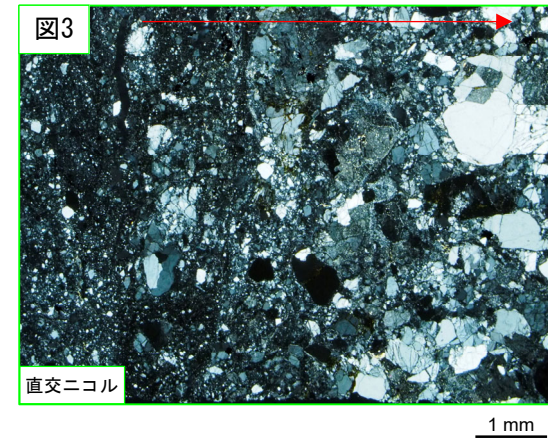
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片量は漸移的に変化する。(図3)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



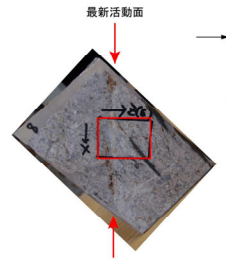
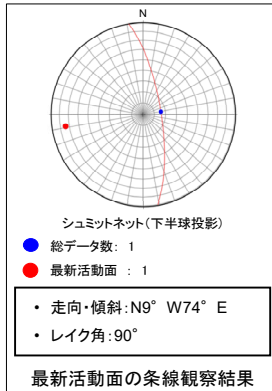
赤矢印: 岩片量が漸移的に増加する。



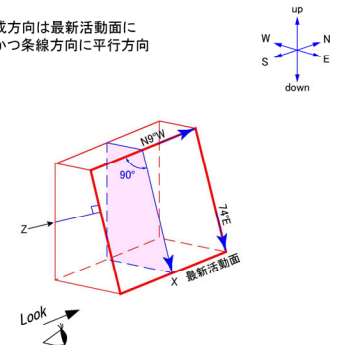
H24-D1-1 深度49.20~49.91m 非モデル化破碎部 (1/2)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.84m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

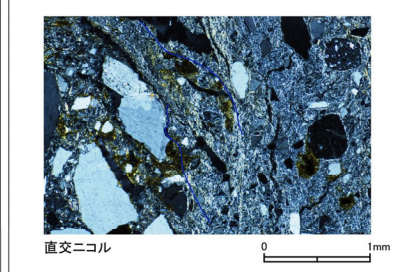
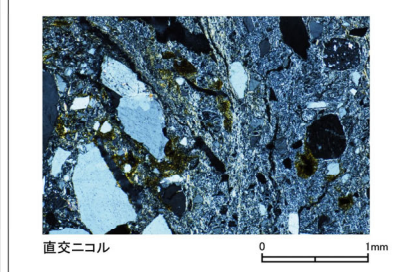
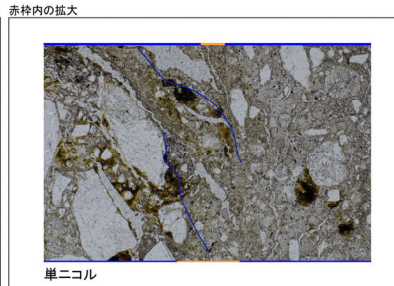
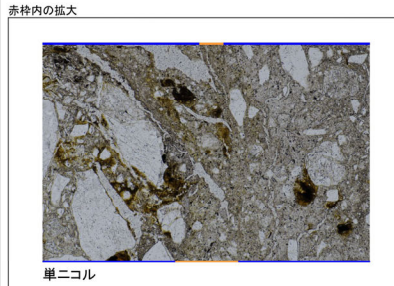
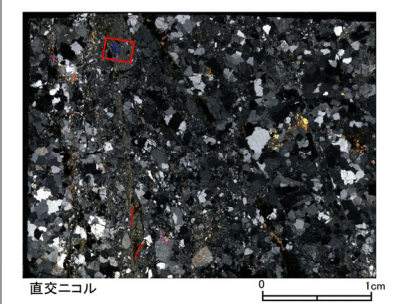
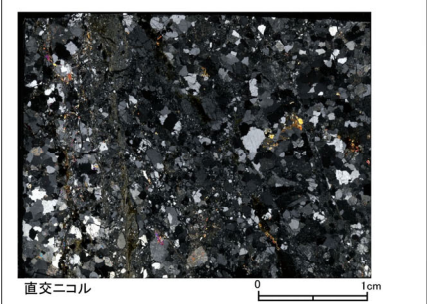
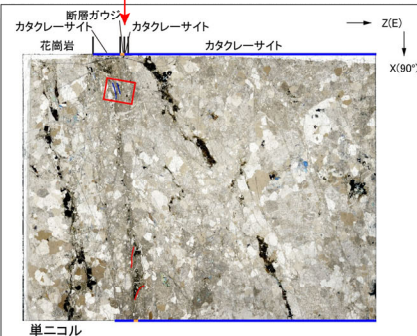
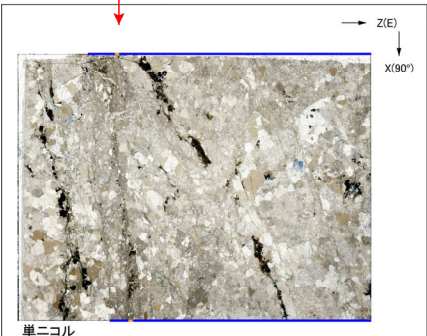
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



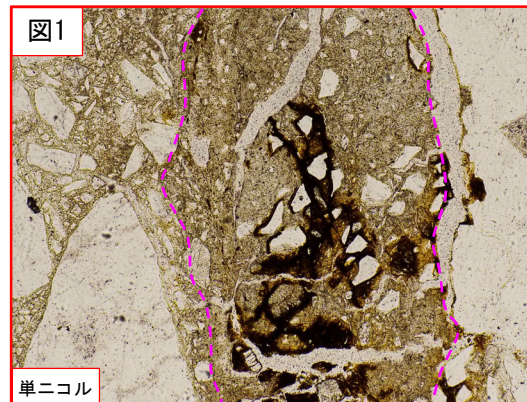
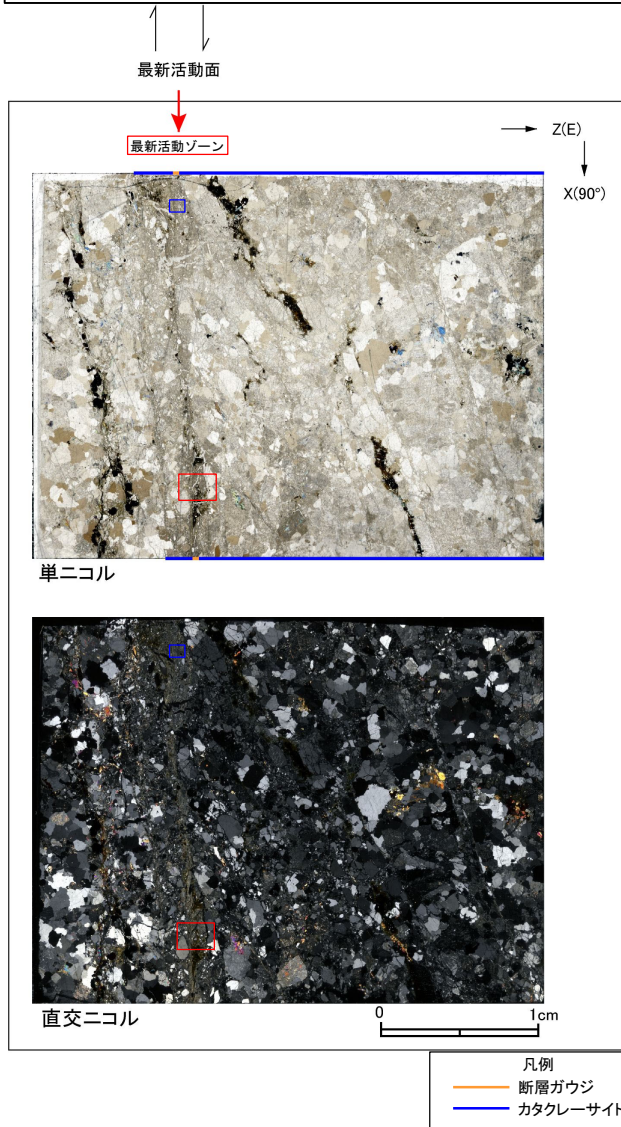
走向・傾斜 N9°W 74°E
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



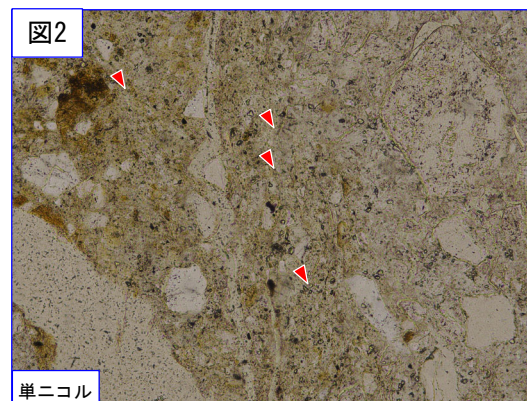
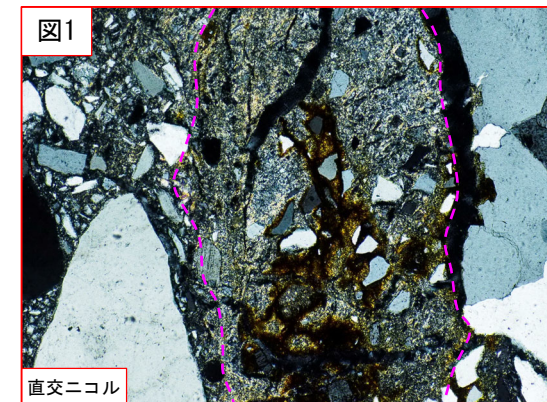
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-1 深度49.20~49.91m 非モデル化破砕部 (2/2)

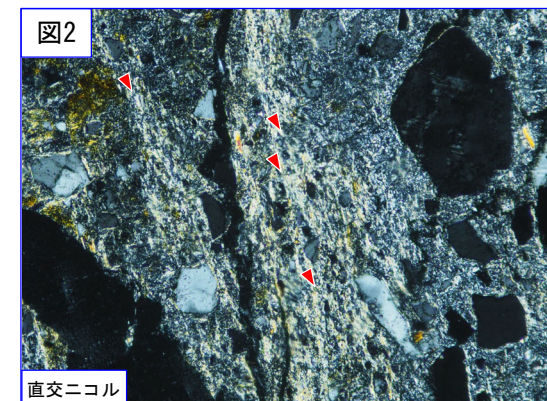
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

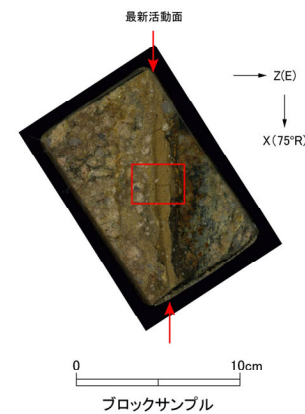
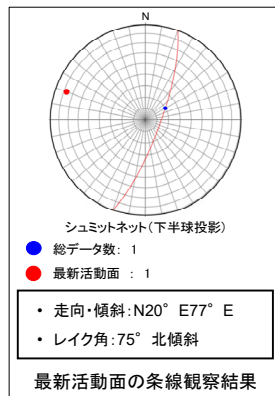


赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

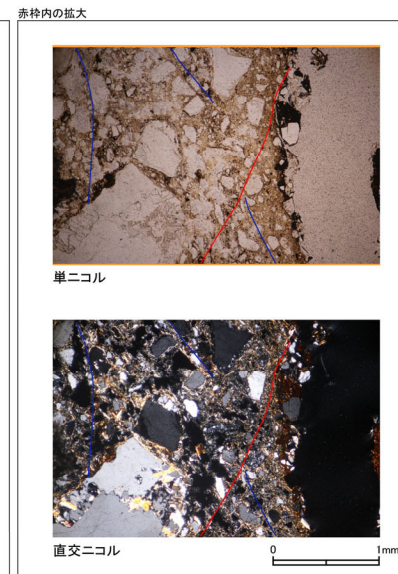
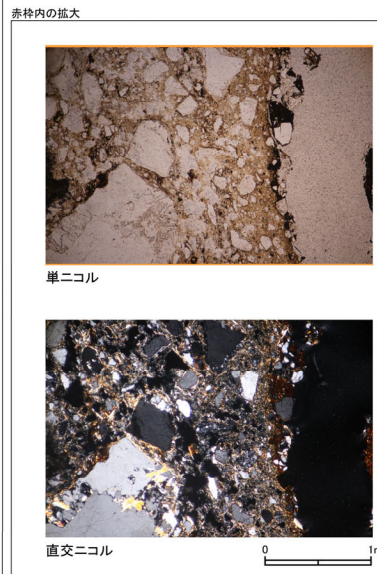
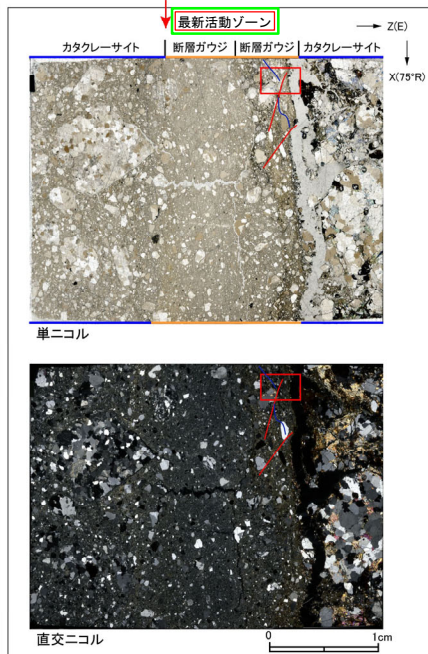
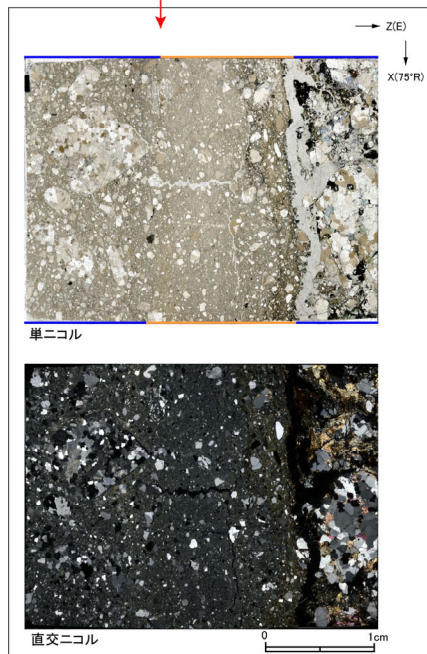
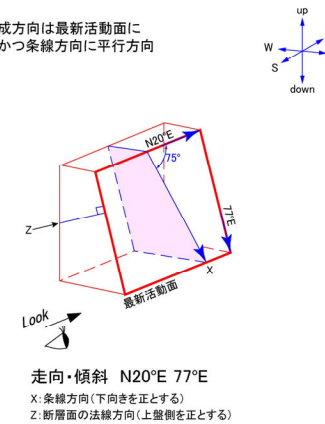


H24-D1-1 深度53.77~54.54m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.77m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面